

みほ 三保ダム

このダムは、洪水調節・水道用水・発電などのため昭和53年に神奈川県・神奈川県内広域水道企業団・東京発電株式会社が共同でつくりました。ダムによってできた湖は丹沢湖と名付けられました。この湖は、県内の4つの大きな人造湖のうち、宮ヶ瀬湖に次いで大きく、相模湖、津久井湖とならぶ大きさです。





すいぼつ 水没するまえのダム周辺 (ダムができたところ) しゅうへん

このダムをつくるために、昔からあった家や道路などが水没すいぼつし、そのために、この地域ちいきに住んでいた多くの人たちが新しい場所へ移り住みました。

- 水没した家 (世帯数) せたいすう 2 2 3 世帯 せたい
- 新しい場所に移り住んだ人 1, 0 2 6 人
- 水没したいろいろな施設 しせつ 小学校 1 校
- 中学校 1 校
- 保育園 1 園



まちやくば ししよ 町役場支所、ゆうびんきょく 発電所、郵便局、神社、寺などです。

れきし ダム^の歴史

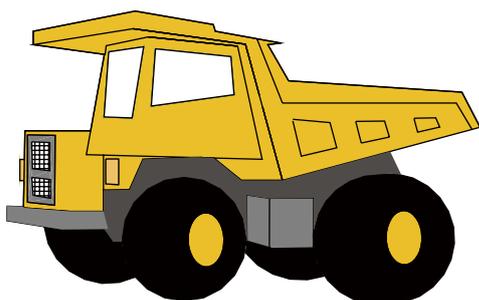
- 昭和36年 4月 ダムをつくるための調査^{ちようさ}を始めました。
- 昭和48年12月 水没^{すいぼつ}する家や田畑^{ほしやう}の補償^{ほしょう}の話し合い^{かいけつ}が解決^{かいけつ}しました。
- 昭和49年 5月 ダムの工事が始まりました。(起工式^{きこうしき})
- 昭和52年12月 ダムの盛り立て^もを完了^{かんりよう}しました。

ダム工事で使われた^{おも}主な^{きかい}機械

- ダンプトラック・・・・・・・・・・32トン
- ブルドーザー・・・・・・・・・・30トン
- トラクターショベル・・・・・・・・36トン
- シープスフートローラー・・・・20トン



- 昭和52年12月 三保小・中学校の移転^{いてん}が完了しました。
- 昭和53年 2月 ダムに水をため始めました。
- 昭和53年 4月 ダムの管理事務所^{かんりじむしょ}がつくられました。
- 昭和53年 7月 ダムの工事が終わりました。(竣工式^{しゅんこうしき})
 ダム工事にかかった費用^{ひよう}・・・・・・・・・・約823億^{やく}円^{おく}
 ダム工事で働いた人々^{はたら}・・・・・・・・・・のべ55万人
- 昭和53年11月 ダムが初めて^{はじ}満水^{まんすい}になりました。



こうぞう ダム

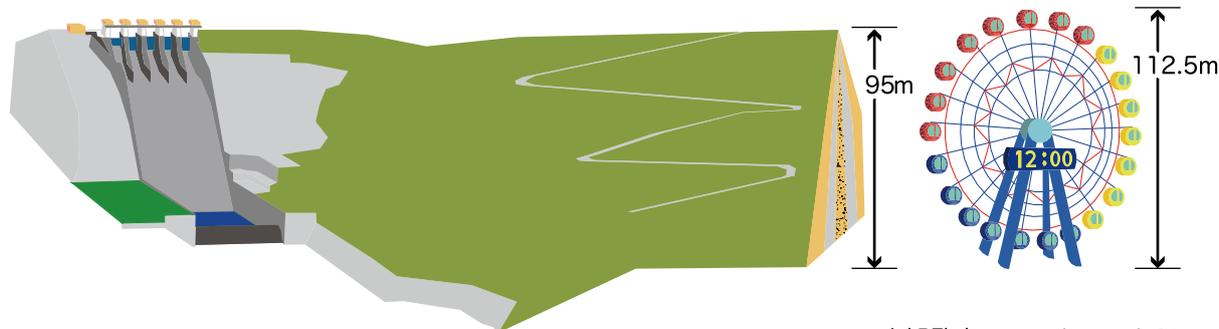
ダムの型式 土質しや水壁型ロックフィルダム

土と岩石を積み上げてつくりました。

地震がきても大丈夫なように、安全につくってあります。

ダムの長さ 587.7 m

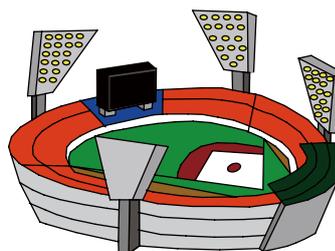
ダムの高さ 95.0 m



大観覧車コスモクロック21

ダムの体積 5,816,000 m³

横浜スタジアム19杯分
(305,966 m³)



水のたまる量 64,900,000 m³

湖の面積 2.18 km²

湖のまわりの長さ 21.5 km

水の集まってくる面積 158.5 km²

ほうりゅうせつび 放流設備

三保ダムでは三つの目的^{もくてき}を持った放流設備があります。

1. 洪水放流設備^{こうずい} 洪水吐ゲート^{こうずいばき} 5門



洪水の調節を行うとき、
開けるゲートです。

2. 常用放流設備^{じょうよう} 1式^{しき}



下流に必要な水(水道・
発電用)を流す設備です。



3. 底部放流設備^{ていぶ} 底部放流ゲート 1門



緊急時^{きんきゅうじ}に開けるゲートです。



やくめ ダム役目

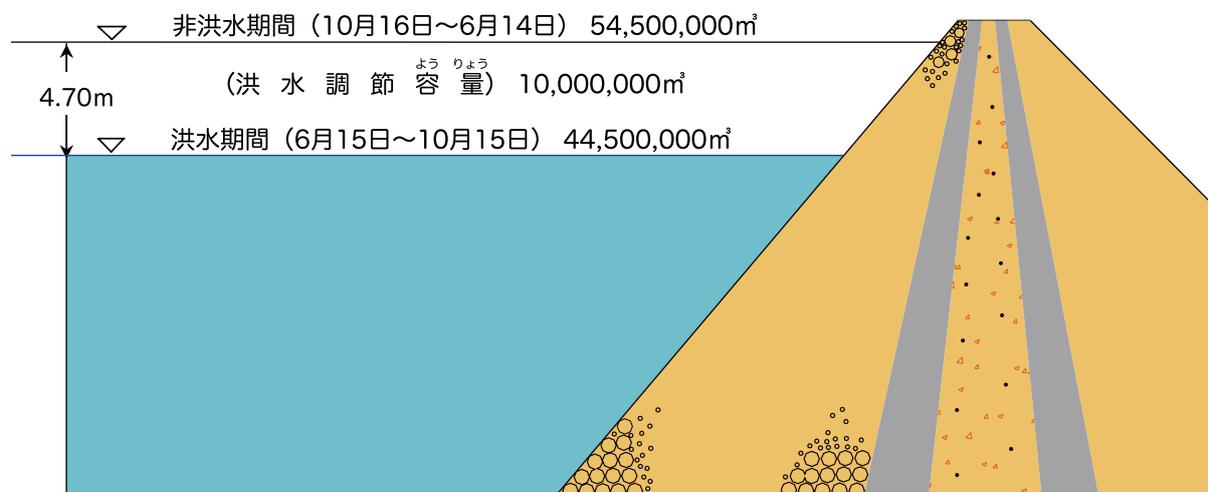
1. 洪水調節

台風や大雨の多い洪水期間（6月15日～10月15日）にはあらかじめ湖の水位を4.7m下げておきます。

これは、大きな洪水のとき、ダムに最大1秒間に2,100m³の水が流れこむことを予想し、このときダムから流す水の量を最大1秒間に1,250m³に調節して流します。

ダムに流れこんだ水をそのまま流さず、おそろしい洪水から川の周辺の住民やその財産を守るため、ダムで水の量を調節するのです。これを洪水調節といいます。

非洪水期間（10月16日～6月14日）には、ダムにいっぱい水をためて、水道や発電用水として利用します。



2. 水道用水

ダムにためられた水は、^{じょうようほうりゅうせつび}常用放流設備から流します。その水は6か所の発電所を通り、^{あしがらへいや}足柄平野の農業用水としても^{りょう}利用されながら28km下流の^{おだわらしいいずみ}小田原市飯泉まで流れます。

そこにつくられている^{いづみしゅすい}飯泉取水ぜきで、あらためて1日^{さいだい}最大約180万 m^3 を取水し、^{のこ}残りの水は海（^{さがみわん}相模湾）へ流れます。

取水された水は、^{こういきすいどうきぎょうだん}神奈川県内広域水道企業団の^{じょうすいじょう}浄水場できれいにされて家庭や工場にとどけられます。

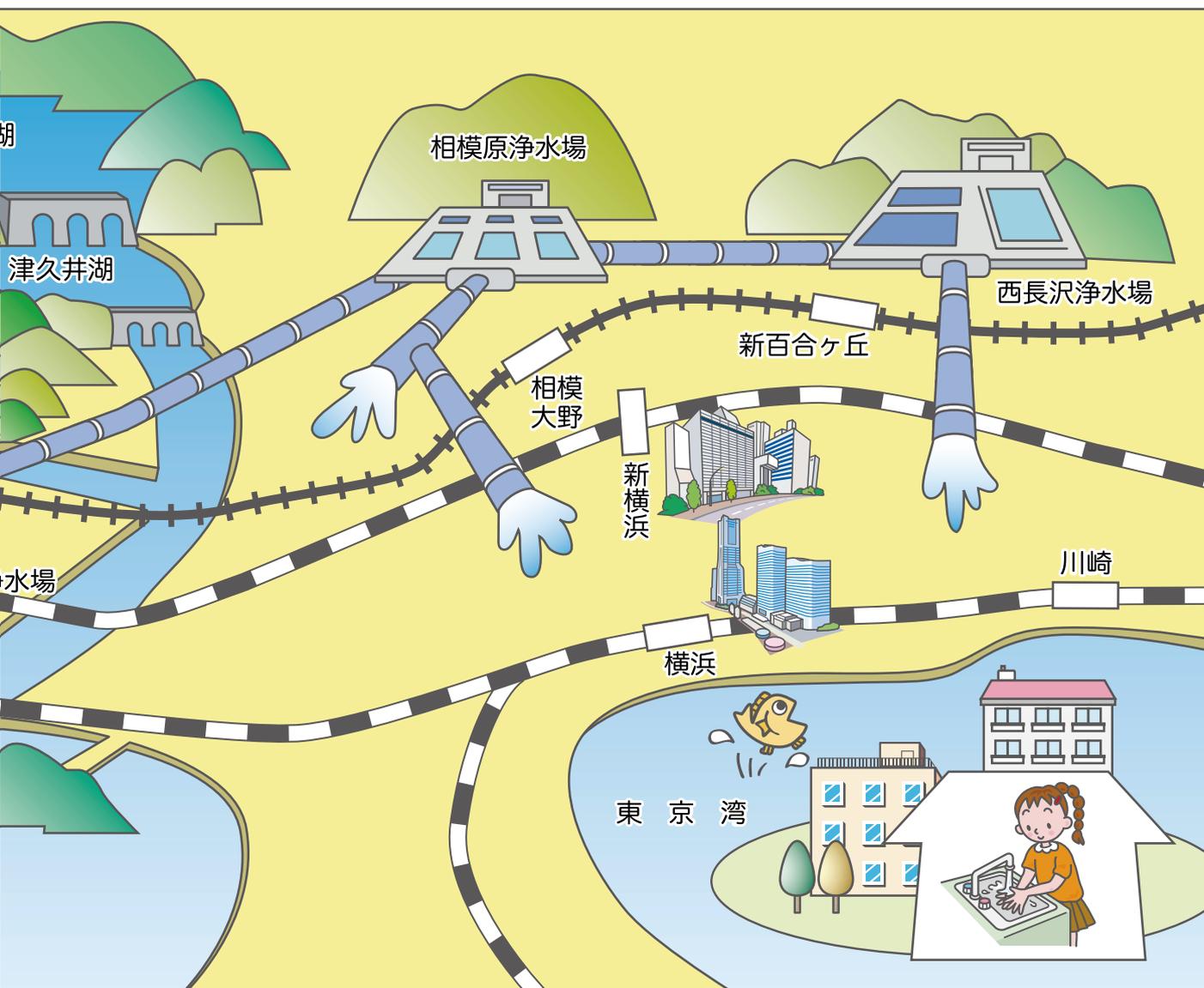


3. 発電用水

ダムじょうようほうりゅうせつびの常用放流設備から流す水の力を利用して、東京発電株式会社の田ノ入たのいり発電所はつでんきの発電機を回し、電気をおこします。

この発電所でおこす電気は最大7,400kwです。これは一いっ般家庭ばんかてい11,900軒けんまかなを賄うことができます。

（ 令和4年9月現在
東京発電株式会社 三島事務所
水力発電所パンフレットより ）



ほうりゅう ダムからの放流

ダムがないと、上流にたくさんの雨が降った場合そのまま川の水が増えて洪水になってしまいます。洪水を防ぐために、水の一部をダムにためて調節しながら放流しています。

そのために、ダムにためた水を雨がやんだ後も放流しなくてはならなくなり、天気がよくなっても放流を続けることがあります。

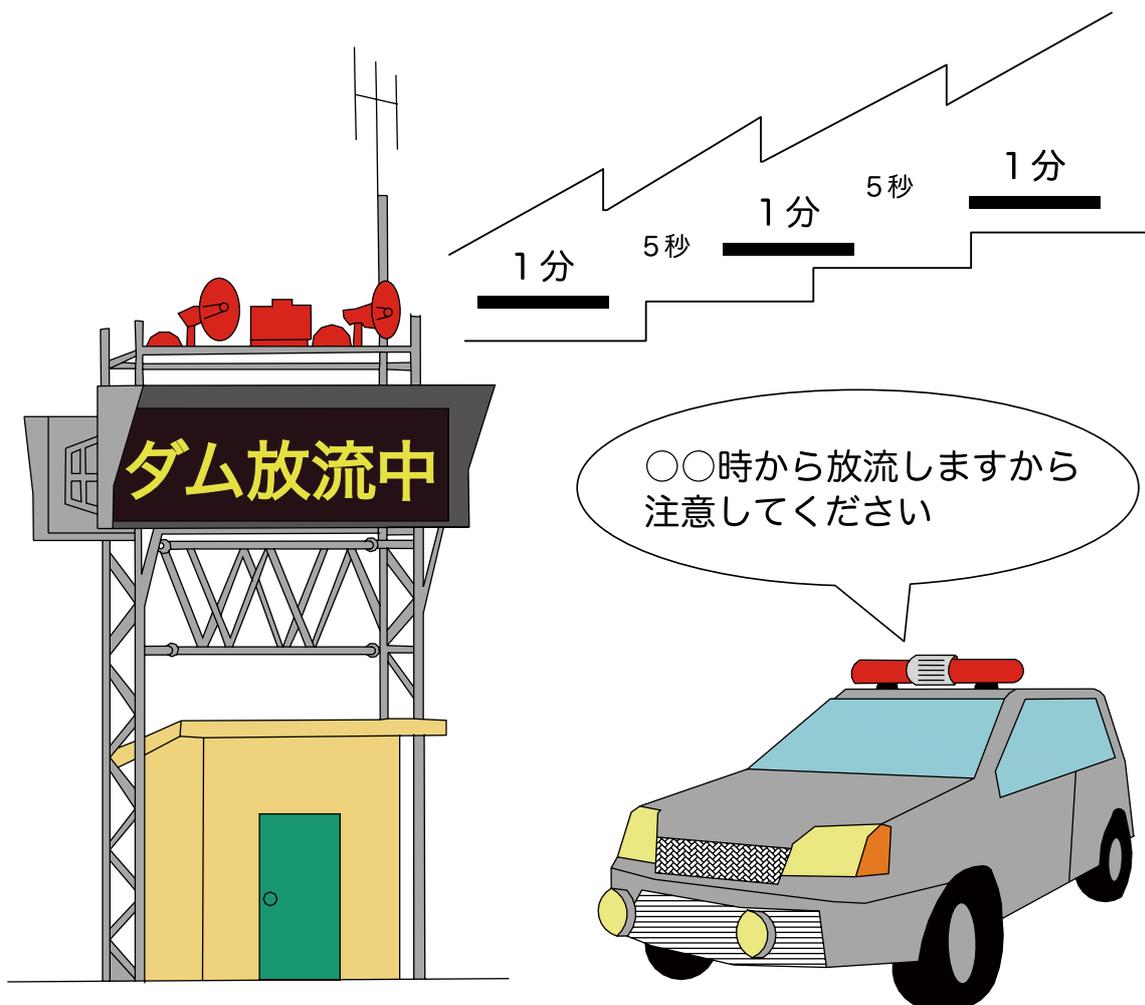
また、台風や大雨の予報によっては、あらかじめダムの水位を下げるために、雨が降るまえから放流をすることもありますので注意してください。



サイレンやスピーカーが鳴るとき

ダムから水を放流するときには、サイレンや、スピーカーを鳴らして住民に知らせます。このような設備は下流の川ぞいに19か所つくられています。また、放流警報車がダムから下流にむかって警報にいきます。

ダムから水を流しているあいだは、**ダム放流中**の電光表示がつき赤ランプがまわっています。このようなときは、川の水が増えてきますので川に入らないでください。



しごと ダムの仕事

ダムを^{かんり}管理するには、いろいろな仕事があり、職員が^{しよくいん}昼も夜も
^{はたら}働いています。

システム管理室



ダムや川の^{ようす}様子を^{かんし}監視し、^{ちようせつ}流す水を調節しています。

けいさんき 計算機室

ダムを管理するため、
^{ひつよう}必要なデータを^{あつめ}集めて、
コンピューターで^{しより}処理
しています。





湖に流れてきたゴミを^{せいそうせん}清掃船で集め、きれいにします。



ゲートを動かすために^{せつび てんけん}設備を点検します。



ダムを安全に守るため、トンネル内の点検をします。



船で湖の^{じゅんし}巡視をします。



湖に流れてきた^{どしゃ}土砂を^{のぞ}取り除きます。



^{うりょう すいりょう}雨量や川の水量のデータをダムに送る^{むせんそうち}無線装置の点検をします。

しゅうへんしせつ ダム周辺施設

- 丹沢湖記念館

ダムの建設時の写真や、周辺の遺跡の出土品などが展示してあります。

- 三保の家

水没地から古い民家に移転したものです。

- ダム広場公園

丹沢湖の模型や、季節ごとの花が咲く公園があります。

- 千代の沢展望台

丹沢湖と富士山がよく見えるところです。

- 三保の里みち

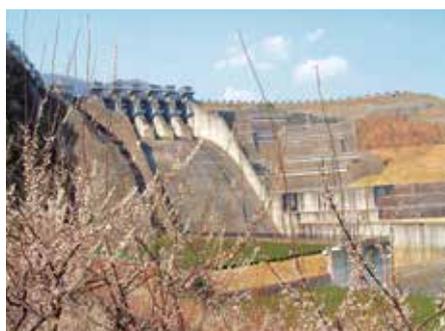
湖を見ながら尾崎の半島を散歩できる道です。

- 湖の周辺の公園

湖の周辺には多くの公園があり、サイクリングなどの休憩所になっています。



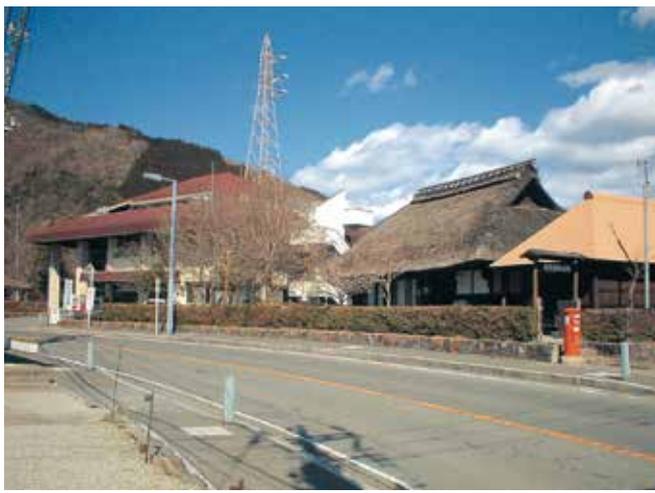
千代の沢からの



ダムと初春の梅



丹沢湖周辺の紅葉



丹沢湖記念館と三保の家

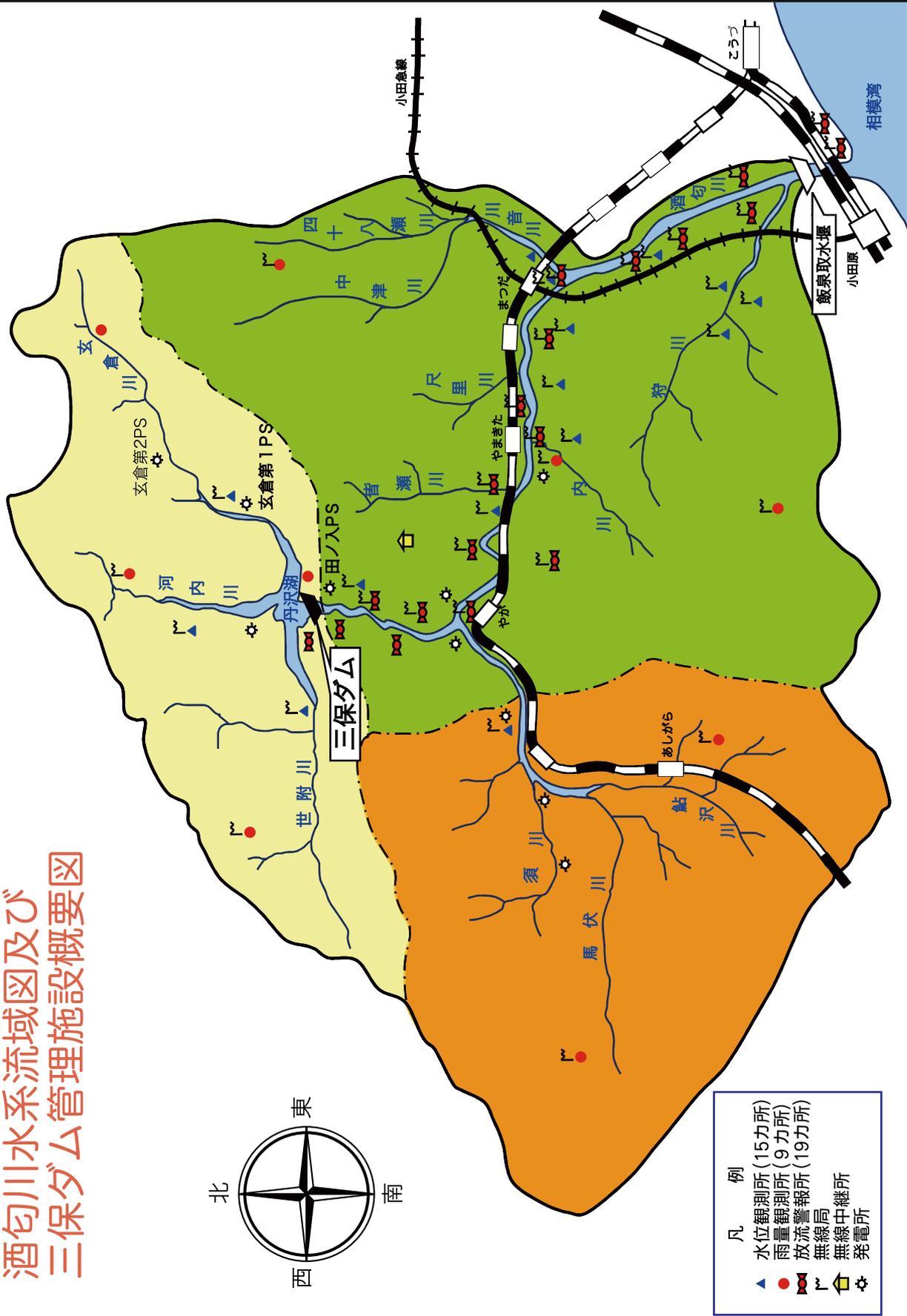


展望



ダム広場

酒匂川水系流域図及び 三保ダム管理施設概要図



神奈川県

企業庁酒匂川水系ダム管理事務所 三保ダム管理事務所

足柄上郡山北町神尾田734 〒258-0203 電話 (0465) 78-3711 (代表)
FAX (0465) 78-3371

